

中長期目標 (学校ビジョン)	自立と社会参加をめざし、より豊かに生きる力を育む学校				今年度の 重点目標	1 学習指導・授業改善に努める【授業実践の充実】 2 保護者や地域の期待と願いに応える【自立と社会参加】 3 児童生徒の健康と安全を守る【QOLの向上】 4 センターの機能を推進する【チーム鳥養の推進】				
年 度 当 初						(10)月				
評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	到達状況				
1 学習指導・授業改善に努める【授業実践の充実】	小学部	○自分らしさを発揮し、意欲的に学ぶ授業づくり	○各クラスが、児童の興味関心や発達段階を考慮した授業づくりに取り組んでいるが、複数の教員での目標設定の検討が十分ではない。	○実践した授業を複数の教職員で評価し、授業改善に努めている。	○学部会の中で授業づくりについて話し合える場を設け、教職員の意見が交わせるようにする。 ○学級事務日などを利用して、実践した授業の写真やビデオを複数の教職員で見合い、授業改善につながる検討を行う。 ○教職員アンケートをとり、目標達成度を評価する。	○定期的に勉強会を開き、各教員がもつ専門性を共有することができた。しかし、それらの専門性を実践に活かすことに課題がある。 ○ビデオや写真などの記録をとることが難しく、授業後の検討ができていない。				
	中学部	○一人一人の課題や教育的ニーズに応じた授業づくり	○生徒がどのような学習を積み上げてきたかの履歴が把握しにくい。	○目標設定や評価の妥当性について検討した授業づくりがなされている。 ○重複障がい学級の学びの履歴が残されている。	○学部内で調整して、授業を見合う機会を年3回以上確保する。 ○学部会や学級事務日などを利用して、教材教具を見合う会を年3回以上設ける。 ○扱った絵本、曲などを学びの履歴に残す。 ○教職員にアンケートをとり、目標達成度を評価する。	○授業を見合う機会を計画的に持つことができないが、授業についての気づきを職員室や教室で日常的に行っている。 ○学部での勉強会を計画的に行い、教材の工夫も共有した。				
	高等部	○表出・表現力と課題解決力を高める授業づくり	○重複障がい学級では、生活年齢に応じた指導内容の検討が必要である。 ○単一障がい学級では、基礎学力の定着を目指した授業に取り組んでいるが主体的に課題を解決する指導方法の検討も必要である。	○生活年齢に応じた指導の検討がなされている。 ○単一障がい学級で、生徒が主体的に課題を解決する指導方法の検討がなされている。	○学部会で生活年齢に応じた指導を学ぶミニ研修会を毎回行う。 ○子どもを語る会や学部会の機会を利用してお互いの実践について検討する。 ○教職員アンケートの結果で目標達成度を評価する。	○学部会でミニ研修会を実施できた。内容は、「生徒理解のコン」「安全安心な環境づくり」「病気と障がいの理解」などであった。 ○子どもを語る会や学部会だけでなく、放課後の職員室で生徒指導についての検討や日々の指導の改善・工夫についての話し合いが行われた。 ○生徒に題解決力がどれだけ育成されたと思うか・教員にアンケート行った結果、「少しできた」が多かった。				
	教務部	○連続性、系統性のある個別の指導計画の作成	○個別の指導計画の内容が整理、改善されつつあるが、指導の連続性や系統性に課題がある。	○こころ、からだ、せいかつの視点の下に連続性、系統性を意識した「個別の指導計画」が作成されている。(作成率70%以上)	○年4回教科領域の会等で指導内容の連続性、系統性について情報交換や検討を行う。 ○「個別の指導計画」のフェイスシートを「こころ」「からだ」「せいかつ」の視点に分けて記述する。	○これまでに教科領域の会を1回行った。各学部での実践について情報交換をして、各学部の児童・生徒の様子や実態に応じた支援・指導の様子について互いに知ることができた。 ○教務部内で新様式での記入の試行を行った。「内容」欄に記入すべき事柄や目標設定にあたっての手続きなど確認しておくべき事項が明確になった。				
	研究研修部	○児童生徒の自立をめざした目標設定の工夫	○教育的ニーズを踏まえた目標設定の方法が明確ではない。	○一人一授業に取組み、児童生徒一人一人の実態把握と教育的ニーズを踏まえた目標設定を基にした授業を行っている。(目標値90%以上)	○一人一授業を利用して、目標設定を基にした授業を行う。	○グループ研究の中で実態把握に取り組み、個々の教育的ニーズを探っている。目標設定や支援については、一人一授業の実践を通して共通理解されつつある。				
	情報教育部	○ICTを活用した授業実践の推進と充実	○単発的な実践事例は多くあるが、児童生徒の変容がわかるまで長期に取り組んだ実践報告が少ない。	○ICTを活用した授業の実践報告を行う。(目標値70%以上)	○教職員が児童生徒の実態に応じたICT活用が行えるように、関係機関等と連携した実践報告を行う。(授業実践一人一事例報告) ○学習保障事業(オリヒメ)を推進する。	○関係機関と連携して、研修会や学習会で実践例の報告や新しいアプリ等の紹介を実施した。個々の実態に合ったICT活用が徐々に浸透しつつある。 ○オリヒメ導入が8月下旬となって大幅に遅れた。オリヒメの活用について周知するとともに、現在その実践に取り組んでいる。				
2 保護者や地域の期待と願いに応える【自立と社会参加】	小学部	○保護者や関係機関と連携した指導支援の充実	○外部機関からの指導や支援を受ける機会が増えてきているが、学校と関係機関の間で指導目標や指導後の評価等の共通理解、日程等の連絡調整に課題がある。	○学校と関係機関の間で指導目標や指導後の評価等の共通理解、日程等の連絡調整が整っている。	○外部機関の指導や支援についてのねらいや目的、学校と関係機関の間で指導目標や指導後の評価等の共通理解をはかる機会を設ける。 ○教職員にアンケートをとり、目標達成度を評価する。	○外部機関の専門的な助言が実践の参考になっている。 ○外部機関と学校間で指導目標や指導後の評価等の共通理解を図ったり、日程等の連絡調整手順を整理したことで、以前に比べてスムーズな連携を図ることができるようになった。				
	中学部	○自己実現に向けた指導・支援を行うための連携の在り方	○一人一人の自立と社会参加に向け、情報収集しながら共通理解を図っている。 ○保護者個々のニーズに応じた情報提供や関係機関との連携が必要である。	○本人・保護者・関係機関・学校関係者が描く生徒一人一人の自立と社会参加の具体的なイメージが共通している。	○個のニーズを把握して最新の情報が収集できるよう校内の人材を活用し、年2回学部会などで情報交換する。 ○保護者それぞれが持つ情報を相互に交換できるように、参観日の学部懇談に位置づける。 ○教職員にアンケートをとり、目標達成度を評価する。	○本人の願いや保護者のニーズ等、機会をとらえて聞き取っている。内容によっては学部会で共通理解を図るようにしている ○施設利用体験の説明会に進路指導主事に参加してもらい、保護者に施設の状況や情報の提供に努めた。 ○医療的ケアが日常的に必要な生徒が増え、受け入れることのできる施設がないのが現状である。				
	高等部	○進路実現を図るための支援体制づくり	○高等部卒業後の進路として生活介護から一般就労、進学など多様であり、それぞれの進路に応じた支援が必要である。	○それぞれの進路に応じた連携した支援が行われている。	○本人、保護者からの進路に関する要望を聞き取り、その実現のための計画を本人、保護者、担任および進路担当教員と連携して実行していく。 ○3年生の進路決定先及び保護者アンケートで目標達成度を評価する。	○職場体験・施設利用体験に向けて生徒・保護者との話し合いを行い実態に応じた実習先の選択ができた。事後指導では総括と次の目標の設定ができた。 ○関係機関と連携し、生徒・保護者に進路に関する必要な情報を提供する機会を設定した。 ○進路実現に向けての努力を教員に質問したところ、ほとんどが、「努力した」と回答している。				
	文化部	○一人一人の学びや力が発揮できる学習発表会の実現	○昨年度から分散型の発表会形式に変えたことから、児童生徒の実態に合った発表会となった。 ○発表会の形式やねらいの変更の意義が教職員や保護者に十分に伝わっていない。	○一人一人の学習の積み重ねや良さを引き出し、人とのつながりが感じられる学習発表会が実施されていると感じている。(目標値70%以上)	○発表会の新名称を提案し、ねらいを学校便り等で保護者に伝える。 ○保護者、教職員にアンケートを実施し、取組みの評価を行う。	○教職員にアンケートをとり、発表会に変わる新名称を決定して内容に似合うものにした。 ○担当者会を開いて「とりようわくわくフェスタ」のねらいを再確認し、全職員で共通理解を図った。 ○委員会に所属している児童生徒を中心に話し合い活動しながら、会場の飾りつけや放送、読み聞かせ等の計画や準備を行った。				
	自立活動部	○児童生徒の実態に応じた、自立活動の適切な目標設定と指導内容の充実	○お役立ち勉強会(自主勉強会)や「自立活動だより」等で、自立活動の指導に関する情報を定期的に提供している。 ○自立活動の目標設定の手続きについて昨年度末に共通理解を図るための勉強会を実施したが、まだ十分とは言えない。	○児童生徒の実態を的確に捉え、適切な目標設定ができるための勉強会をしている。 ○日々の授業実践に役立つ情報を提供している。	○自立活動の目標設定や指導内容の充実に関する勉強会を年2回以上実施する。 ○自立活動夏季勉強会、自立活動研修会、お役立ち勉強会等を通じて、実践に役立つ情報を年7回提供する。	○自立活動の目標設定等に関する勉強会ははまだ実施できていないが、評価・目標設定の時期に合わせて計画中である。 ○夏季勉強会をはじめとした各種研修は計画通り実施できている。アンケートから内容についてもよい評価を受けている。				
	キャリア教育	○収集した情報の発信	○新たに収集した事業所等の情報を更新して冊子にまとめているが、閲覧頻度が低調である。 ○人権教育や進路に関する情報提供が十分ではない。	○「学校の1日」で事業所等の情報がいつでも知りたいときにすぐに閲覧できるようにする。 ○「学校の1日」で人権教育やキャリア教育の実践に関する情報が閲覧できるようにする。	○情報教育部と連携し、「学校の1日」に事業所に関する欄と人権教育やキャリア教育の実践に関する欄を作る。 ○事業所に関する情報は年1回以上、人権教育・キャリア教育の取組みについては年3回以上更新する。	○「学校の一日」に「事業所情報」「人権教育・キャリア教育」の欄を作り、校内の教職員に最新の情報を提供できるようにした。 ○「事業所情報」では、平成29年度に更新した情報とパンフレットのPDFをフォルダの中に入れるようにした。現在、3回更新した。				

		年 度 当 初				(10)月		
評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	到達状況	評価	改善策
3 児童生徒の健康と安全を守る【QOLの向上】	小学部	体調に配慮した教室環境づくり	○体調を崩しやすい児童が多いので家庭との連携し、障がいに応じた環境調整を行っている。今後も家庭と連携して教室環境の調整を図る必要がある。	○体調に配慮した教室環境づくりをしている。(目標値90%以上)	○学部内で教室環境を改善するアイデアを募り、良いアイデアが教室環境の調整に活かされるようにする。 ○学部朝礼や学部会などを利用して、児童の体調の変化に気づくことができるよう、児童の体調変化のサインについて共通理解する機会をもつ。 ○教職員にアンケートをとり、目標達成度を評価する。	○日常的に空調や外光等に配慮しており、教室環境が改善されている。 ○児童の健康に関する情報共有が日常的にできている。	B	○教室環境について「安全」「清潔」「使いやすさ」の観点で見直す。 ○教室環境の問題点に気づいた場合は学部全体に報告し、教室環境の改善の機会とする。 ○児童の実態や教室の状況が異なっており、クラス間で教室環境についてアイデアを共有するように努める。
	中学部	○生徒が安心感の中でより主体的に活動できる教室環境の整備	○心と身体の変化に気付き、原因と対策を保護者と情報交換しながら行っている。思春期に入り、心と身体のパランスが崩れやすい時期であり、体調を崩すと長引きやすい生徒が多い。	○一人一人に合った健康観察のポイントを学部内で情報交換ができています。 ○安全な教室環境となり、支援に必要な物品が整っている。	○学部会で年2回以上健康観察のポイントの情報交換を行う。 ○教室環境や支援に必要な物品の整備をどう進めたかについて、学部会で各クラス1事例の報告を行う。	○健康観察のポイントについて共通理解を図り、日々の健康観察によっては養護教諭、学校看護師と連携を図りながら行っている。 ○ヒヤリハットの報告を細かくあげているので、安全対策に役立てることができた。 ○安全な教室環境に努め、個人が使うものの間違いがないように場所の工夫がされつつある。	B	○9月・11月・1月の「子どもを語る会」で健康に関するチェック項目に沿って、共通理解を図る。 ○緊急時に何が必要か各クラスで話し合い、学部会で報告し合う。そして緊急時にも対応できる教室環境にしていく。
	高等部	○生徒が安心して学べる教室環境づくり	○重複障がい学級の生徒は、体調面が不安定である。感染や病状の悪化などによって、一度体調を崩すと回復までに時間を多く要する場合がある。 ○単一障がい学級の生徒は、不安やストレスに弱く、体調不良を訴えることが少なくない。	○安全点検を行い、教室環境の衛生管理や改善を適宜行っている。 ○生徒の健康を維持できるように、適度な運動やストレッチ、リラクセーション、認知への働きかけを継続して行っている。	○心と身体の健康を維持するための方法について学部内で共通理解を図る。 ○生徒の様子の観察、医ケア、服薬時で得た情報は、担任、養護教諭、学校看護師等で共有して対応する。 ○教職員アンケート及び保護者アンケートをとり、目標達成度を評価する。	○生徒の心に寄り添うための知識・技術を伝える機会の設定や各クラスのよい実践についての紹介ができた。 ○生徒の体調の変化に気づいた場合は担任同士で情報共有をして養護教諭へ連絡。そして学部主事へ連絡というルールが徹底できた。 ○体調のすぐれない生徒に対しては細目に健康観察を行い、適切な対応が取れるように努力した。 ○すべての教員が生徒の健康についての相談に乗るように取り組んだ。	B	○後期も前期同様に取り組む。
	保健安全部	○児童生徒が安全で快適な生活を送ることができる体制づくり	○火災、地震などの避難訓練、不審者対応訓練、救急訓練などを行ったり、医学講座等の研修会を行ったりして、教職員の安全意識や医療に関する知識の向上を図っている。 ○緊急時の避難の方法や児童生徒への対応などについて職員間でより連携のとれた取り組みを進める必要がある。	○安全な環境づくりに取り組むとともに避難体制・緊急時の対応方法を教職員が共有している。(目標値:教職員の70%以上)	○訓練の反省や研修会の感想などをもとに、日常の学校生活の中でできることや活かせることをまとめて教職員向けの情報を発信する。 ○防災委員会や医療的ケア検討委員会などと連携して防災・防犯のための環境づくりや教職員の医療や救急対応に関する知識向上のために研修できる機会を設定する。	○各種の訓練や研修などで行った反省や指導を受けた内容について通信を作成し、全職員に発信している。 ○医学講座や様々な訓練、救急ウィーク、防災ウィークなどによって教職員の知識や危機管理への意識は向上してきている。	B	○防災・救急ウィークの実施や通信での発信を継続する。年度末には教職員の意識の向上についてのアンケートを実施する。 ○防災備品の保管場所などについても検討する。防災委員会と連携して、避難等に際して必要な環境整備について改善点をあげていく。 ○重症化の予防及び感染症の拡大防止のために、学校としての対応方針を作成する。
4 センターの機能を推進する【チーム鳥養の推進】	支援部	○地域におけるセンター的機能の充実	○相談支援の状況や特別支援教育研修会、交流及び共同学習等、本校が取り組んでいるセンター的機能について職員全体へ周知できていない現状がある。 ○障がいの状態に応じて安心して学校生活が送れるように、関係機関と連携をとりながら就学に係る相談体制を整える必要がある。	○教職員が本校が取り組んでいるセンター的機能について理解している。(目標値:教職員の70%以上) ○関係機関と連携をとりながら就学に係る相談を行っている。	○掲示板や職員会等で本校が行っているセンター的機能の取り組みについて報告する機会を設ける。 ○自立活動部やエキスパート教員等、校内の専門性を活用しながら様々な相談活動に対して、チームで対応していく。 ○教職員アンケートをとり、目標達成度を評価する。	○便りや職朝、掲示板などでセンター的機能の取り組みについて知らせてはいる。 ○校内の専門性を活用しながら校外からの教育相談や特別支援教育研修会の運営等様々な相談活動に対応してきている。	C	○「学校の日」に教育相談の報告の項目を作り、取り組み状況がわかるようにする。
	キャリア教育	○学校説明会等での本校教育の情報発信	○学校説明会等で本校の教育についての情報が提供されている。	○学校説明会等で本校教育の情報提供して理解を深める。(目標値70%以上)	○参加者アンケートを実施して、工夫・改善に努める。 ○ホームページに進路のページを作り、学校の様子を伝えていく。	○支援部と連携した便りを発行し、キャリア教育や人権教育に関する取り組みの情報提供をしている。 ○ホームページに開設する「進路のページ」について現在内容を検討している。 ○11月の学習公開日に学部懇談でキャリア教育の取り組みについて説明する。	C	○ホームページに「進路のページ」を開設して、キャリア教育や進路の取組みを発信する。

A:十分達成(90%以上または目標値以上) B:おおむね達成(70～90%未満または目標値の70～90%未満) C:できつつある(40～70%未満または目標値の40～70%未満) D変化の兆し(20%～40%未満または目標値の20%～40%未満) E:まだ不十分(20%未満または目標値の20%未満)